

ヨハネ 9 : 1-42 「霊的盲目」

9:1 またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。 9:2 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」 9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。 9:4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。

9:5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」 9:6 イエスは、こう言ってから、地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に塗って言われた。 9:7 「行って、シロアム(訳して言えば、遣わされた者)の池で洗いなさい。」そこで、彼は行って、洗った。すると、見えるようになって、帰って行った。 9:8 近所の人たちや、前に彼が物ごいをしていたのを見ていた人たちが言った。「これはすわって物ごいをしていた人ではないか。」 9:9 ほかの人は、「これはその人だ」と言い、またほかの人は、「そうではない。ただその人に似ているだけだ」と言った。当人は、「私がその人です」と言った。 9:10 そこで、彼らは言った。「それでは、あなたの目はどのようにしてあいたのですか。」 9:11 彼は答えた。「イエスという方が、泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい』と私に言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」 9:12 また彼らは彼に言った。「その人はどこにいるのですか。」彼は「私は知りません」と言った。 9:13 彼らは、前に盲目であったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。 9:14 ところで、イエスが泥を作って彼の目をあけられたのは、安息日であった。 9:15 こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見えるようになったかを尋ねた。彼は言った。「あの方が私の目に泥を塗ってくださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。」 9:16 すると、パリサイ人の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないからだ」と言った。しかし、ほかの者は言った。「罪人である者に、どうしてこのようなしるしを行うことができよう。」そして、彼らの間に、分裂が起こった。 9:17 そこで彼らはもう一度、盲人に言った。「あの方が目をあけてくれたことで、あの人を何だと思っているのか。」彼は言った。「あの方は預言者です。」 9:18 しかしユダヤ人たちは、目が見えるようになったこの人について、彼が盲目であったが見えるようになったということを信ぜず、ついにその両親を呼び出して、 9:19 尋ねて言った。「この人はあなたがたの息子で、生まれつき盲目だったとあなたがたが言っている人ですか。それでは、どうしていま見えるのですか。」 9:20 そこで両親は答えた。「私たちは、これが私たちの息子で、生まれつき盲目だったことを知っています。 9:21 しかし、どのようにしていま見えるのかは知りません。また、だれがあれの目をあけたのか知りません。あれに聞いてください。あれはもうおとなです。自分のことは自分で話すでしょう。」 9:22 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会堂から追放すると決めていたからである。 9:23 そのため彼の両親は、「あれはもうおとなです。あれに聞いてください」と言ったのである。 9:24 そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの方が罪人であることを知っているのだ。」 9:25 彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」 9:26 そこで彼らは言った。「あの方はおまえに何をしたのか。どのようにしてその目をあけたのか。」 9:27 彼は答えた。

「もうお話ししたのですが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」 9:28 彼らは彼をののしって言った。「おまえもあの者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。 9:29 私たちは、神がモーセにお話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たのか知らないのだ。」 9:30 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがたは、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私の目をおあけになったのです。 9:31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬い、そのみこころを行うなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています。 9:32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどとは、昔から聞いたこともありません。 9:33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはずですよ。」 9:34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。 9:35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」 9:36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることが出来ますように。」 9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」 9:38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。 9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」 9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」 9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」

導入

ヨハネ 9 章の学びに入る前に、ヨハネ 5-8 章でこれまでに学んだことを振り返りましょう。これまで学んだ内容をおもに 3 つに分けることができます。

1. イエスについてどんなことがわかったらう。

イエスは神から出たお方であり、神と対等であられます。神の救いを与えてくださるお方です。イエスは、ユダヤ人の期待していた救い主とはまったく違うお方です。聖書には、すべての裁きをゆだねられた人の子であると記されています (5 章)。

イエスは霊的な意味で、人々にご自身の肉と血をお与えになります (6 章)。神の子であるキリスト、永遠の「わたしはある」というお方です。

2. この救い主に対して、ユダヤ人はどう反応したらう。

ユダヤ人は、敵対心を見せました。イエスが人間の本性をあらわにし、悪魔の子であることを示されたからです。

ユダヤ人は救いを必要とする反逆者でしたが、イエスを受け入れようとしませんでした。

5-8 章で明らかになったのは、昔から神の選びの民であった人々は、イエスを受け入れることができませんでした。それは、彼らが実際には神に従っていなかったからです。

ユダヤ人が信じなかったのは、彼らの罪のせいであって、イエスの教えが間違っていたからではありません。ヨハネはそのことを福音書の中で明確にします。

3. では、人はどのようにして「見る」ことができるのか。

この問いに対する答えは、5-8 章の随所に見られます。

- a) モーセの教え、つまり神のことばに聞き従うなら、イエスを「見る」(認識する)ことができる。(5:46)
- b) 御父に聞き従い、御父から学ぶなら、「見る」ことができる。(6:45)
- c) 神のみこころを選ぶなら、「見る」ことができる。(7:17)
- d) イエスのことばをしっかりと握りしめるなら、「見る」ことができる。(8:31-32)

しかし、「信じる」と言ったユダヤ人でさえ、これらのことができていないようでした。人はどのようにして「見る」ことができるのか、という問いに対する答えは、9-10章に登場します。簡単に言うと、自分は健全だから大丈夫と思って救い主を受け入れない人は、ずっと盲目のままです。一方、イエスを心から救い主と信じる人は、霊の目が開かれ、見えるようになります。ヨハネ9章の学びに入る前に、盲目に関する旧約聖書の背景を知る必要があります。旧約聖書で、盲目とは、身体的な事柄以上のことを意味しました。霊の破たん状態を表す比喻として使われました。これは、イザヤ書のおもなテーマです。

- a) 盲目は、神に目を向け信じることを拒絶しているしるしである。
(イザヤ 29:9、42:18-25.)
- b) 神に敵対する者に対し、神は裁きをくだし、霊的に盲目にされた。 (イザヤ 6:9-10)
- c) 霊的盲目は、救い主が人々を救いに来られたときに癒される。つまり、これはイエスの具体的なお働きである。 (イザヤ 29:18, 32:3, 35:5, 42:7)

では、ヨハネ9章の学びを始めましょう。

9章を3つに分けることができます。

まず、1-7節で目の見えない人が癒されます。

次に、8-38節には、この癒しについてさまざまな反応が見られます。

最後に、35-41節で、イエス、目の見えない人、そしてパリサイ人の間のやり取りが記されています。

1. 盲人が癒される。— 1-7節

福音書の中で、生まれつき障害があったと記されているのはこの人だけです。この人は、誰もが知る人だったのでしょ。弟子たちはこの人についてよく知っていたようです。弟子たちは目の見えないこの男性を見て、イエスに質問することにしました。

彼らはイエスに「彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」と尋ねました。

私たちはこれをおかしな質問だと思うかもしれませんが、当時のユダヤ人にとっては、当たり前な問いでした。

当時のユダヤ人は、あらゆる苦しみはすべて罪と関連していると信じていたからです。人はお腹の中にも罪を犯すことができると考えられていました。例えば、妊婦が異教の神殿や寺院で崇拝すると、お腹の子も同罪と見なされました。

イエスは、この男性が生まれつき盲目である理由はそのどちらでもない、とすぐさまその可能性を否定されました。

この男性を盲目にしたのは、彼自身の罪でも両親の罪でもない、とお答えになります。

生まれつき目が見えないのは、神のみわざがこの人に現れるためだとおっしゃいました。

では、この男性に現れた神のみわざとは何でしょう。

預言者イザヤは、救い主が来ると盲人の目を開かれると言いました。(イザヤ 29:18,32:3,35:5,42:7)

イザヤ 29: 18 その日、耳の聞こえない者が書物のことばを聞き、目の見えない者の目が暗黒とやみから物を見る。

これが、イエスが救い主であるという証拠です。

「世の光」であるイエスは、靈的に盲目な人々が見えるようにしてください。

人は皆、生まれつき「靈的盲目」です。世の光であるイエスのもとに行く必要があります。

目の見えない人は、靈的盲目を人々に示すのにもっともふさわしい例でした。

この男性が目を癒されて生まれて初めて見えるようになったのはすばらしいことです。けれども、それ以上にすばらしいのは、私たちが自分の罪を知り、靈的な癒しをイエスに求めることです。

私は以前、ロンドンで牧会していました。その教会のワーシップグループをリードしていたのは、赤ちゃんの時から目の見えない女性でした。盲目で生まれたわけではなかったのですが、生まれて数日で何らかの問題が生じ、視力を失ったそうです。

この女性は、神がこの世のあらゆる悪を見なくて済むようにしてくださり、最初に目に見えるのはイエさまだと、クリスチャンになったときにわかったと言います。クリスチャンになると、盲目もこのようならえかたができるようになるのです。

これは、耳の聞こえない人も同じなのではないでしょうか。その人たちが初めて耳にするのは、イエスの御声なのです。

2. 生まれつき盲目だった人が癒されたことに対するさまざまな反応。— 8-38 節

8-38 節には、4つの会話が記録されています。

a) まず、盲人の近所の人たちの会話。

盲目の人に見えるようにできるのは、神のみです。ですから、その人が本当に目の見えない人だったかどうか確かめるのは重要でした。

癒された本人は、近所の人たちに、生まれつき見えなかったが見えるようになったと証言しました。彼はその経緯について、泥を作って目に塗り、シロアムの池で洗えば見えるようになるとイエスに教えてもらったと、人々に話しました。

ここで大切なのは、この時点では、癒された男性がイエスを「イエスという方」と言っていることです。後に 38 節で、彼はイエスを神の子と信じました。

b) 次に、盲人とパリサイ人の会話。

(13-17 節)

この男性は、安息日に癒されました。パリサイ人の間では、イエスの正体について意見が分かれています。安息日に癒すのだから罪人だと言う人もいれば、神から出たお方でなければそのような奇跡を起こすことはできないと認める人もいました。

それで彼らは、癒された盲人の意見を求めました。するとその人は、イエスは「預言者」だと答えました。

癒された盲人は、イエスについての考えを「イエスというお方」から「預言者」に変えました。彼は、靈的にも少しずつ見えるようになってきたのです。一方、ユダヤ人たちはまだ信じませんでし

た。

c) 癒された盲人の両親とユダヤ人指導者との会話。

(18-23 節)

ユダヤ人指導者たちは、生まれつき盲目だった男性の両親を呼び出しました。両親は、確かに彼の目が生まれつき見えなかったことを証言しましたが、ユダヤ人指導者に会堂から追放されることを恐れたので、イエスが何者かについては明言を避けました。この責任を息子に負わせたのです。これほどの証拠がそろっていても、ユダヤ人指導者たちはイエスを敵視しました。自分たちの考えを変える気はさらさらなく、イエスが神である裏付けがあるにもかかわらず、イエスへの敵意を募らせ、生まれつき盲目だった男性のことも好ましくないと思うようになりました。

世間の多くの知識人と同じです。彼らは、歴史のあらゆる証拠をもって歴史を史実と受け入れながら、聖書に記された証拠は信じようとしません。聖書には、新約聖書時代の歴史について、どの書物より詳細な事実の記録があるにもかかわらず、信じないのです。

歴史の信ぴょう性は、その時代に書かれた書物の原本がいくつ発掘されたかに左右されます。イエスの生涯についての書物としては、ギリシャ語の写本 500 部が見つかっています。それ以外では、紀元前 59 年から紀元 17 年の歴史をつづった本は 20 冊しか見つかりません。つまり、新約聖書は、この時代について見つかった歴史の記録としてもっとも正確であると言えます。

それでも、人はそのような根拠をかたくなに拒絶します。

時代が変わっても、人の心は変わりません。けれども、私たちがイエスを信じるなら、イエスは人の心を変えることができになります。

d) 最後に、生まれつき盲目だった男性とパリサイ人の会話。

(24-34 節)

この会話で、生まれつき盲目だった男性は、ついにイエスの味方をし、ユダヤ人指導者たちに異議を唱えます。彼は、自分に何が起こったか、そして、神殿での教えから得た神についての限られた知識に基づいて話しました。彼は書物を読むことはできませんでしたが、他の人たちからいろいろ聞いて知ったのでしょう。残念ながら、パリサイ人は、自分たちの利益ばかり考える「偽りの牧者」でした。この生まれつき盲目だった男性は、神を知りモーセの教えに従っていると言う知識人たちよりも、霊的な洞察に富んでいました。これに対しパリサイ人は、男性を会堂から追い出し、罪の中に生まれた者とののしりました。

3. イエスと生まれつき盲目だった男性との会話。

(35-41 節)

この最後の会話から、なぜパリサイ人が盲目のまま、生まれつき盲目だった男性が自由を得てイエスを信じイエスの弟子になれたのかがわかります。

イエスは、生まれつき盲目だった男性から数日間離れておられましたが、再び姿を現されます。イエスが男性に話しかけ、ご自身が人の子（神の子）であることを明かされると、男性は信じました。彼は信じただけでなく、イエスを拝みました。

その数日で、イエスがどういうお方で、自分に何をしてくださったのか、この男性がちゃんとわかっているかが試されました。

イエスは 39 節で、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためにこの世に来た、とおっしゃいます。

そして、その意味を 41 節で説明されます。自分には罪がなく、救い主など必要ないと思っている人たちは罪の中にとどまるとおっしゃいます。一方、自分の罪を認め、イエスを救い主として信じる人は、自由にされ、イエスがどういうお方かを知ることができます。

「霊の目」が開かれるのです。パリサイ人は信じなかったので、盲目のままでした。世の光は救いをもたらし、イザヤ書 42 章の預言を成就します。

適用

では、ヨハネの福音書を最初に読んだ人々にはどういう意味があったのでしょうか。また、現代の OIC の私たちはこの箇所をどのように日常生活に活かすことができるでしょう。

39-41 節で、ご自身の奇跡（しるし）と会話を私たちが解釈することを、イエスは明らかに想定しておられます。

1. 生まれつき盲目だった男性を見えるようにするという奇跡は、イザヤをとおして預言され待ち望まれた救い主がイエスであるという証拠です。
2. 「世の光」であるイエスのみわざは、見えない者を見えるようにすることと同時に、世の光を拒んで自分は霊的に見えていると思っている人を盲目にすることです。
3. 当時の人々は、神の昔からの選びの民が神の御子を拒絶したことや、イエスを神の子と信じる人に敵対したとことに衝撃を受けました。
4. 目を見えるようにしていただく唯一の条件は、見えないと認めることです。
5. 自分は見えていると思っている人たちに希望はありません。

私たちにとっての意味

すでにクリスチャンの人は、イエスが旧約聖書で預言され、待ち望まれた救い主であると理解しているはずですが。イエス以外に、神による人類の救いのご計画はありません。

「世の光」であるイエスの働きには、ふたつの要素があることを知る必要があります。イエスは、盲人の目を開き、イエスに敵対する人々を盲目にされます。

イエスは、盲人の目を開かれます。キリスト教に敵意を持つ人であつてもそうなります。

イエスを信じる者に対して人々が嫌悪感を持ったからといって驚くことはありません。現代の地球上でもっとも迫害されているのはクリスチャンです。

イスラム教は今日、世界中でクリスチャンを迫害し、殺しています。しかし、イスラム教徒でクリスチャンになる人もいます。イエスはその人たちの霊の目を開いてくださいます。中には、イエスを信じたことで無情にも殺される人もいます。

私たちは今日、イエスがすべての人の心をご存じであるという事実を励ましを受けましょう。イエスは、信仰や宗教、人種に関わらず、ご自身を信じるすべての人を救うことのできるお方です。つまり、今日あなたを救うことができるということです。あなたがイエスのもとに来て、自分の盲目を認めるなら、救ってください。

イエスをまだ知らないなら、どうかイエスのもとに来てください。そうすれば、イエスはあなたに霊の光を与え、暗闇から救い出し、イエスの輝かしい光の中に導き入れてくださいます。

アーメン。